



# 箕面小だより



箕面市立  
箕面小学校  
令和5年(2023年)  
5月号

学校教育目標  
めざす子ども像  
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

## 手をつないで

校長 垣内 幸太

新学年が始まって3週間が過ぎようとしています。新しい学年、教室にも慣れ、教室からは先生と子どもたちがともに学び合う朗らかな声が聞こえてきます。運動場では元気に楽しそうに仲間や先生とともに遊ぶ姿を見ることができます。

先日、1年生を迎える会が行われました。児童会の子どもたちの進行のもと、1年生と6年生が手をつないで入場してきます。在校生が大きな拍手で迎えます。そこに集うすべての子どもたち、教職員の顔はあたたかな笑顔で包まれています。数年前までは、至極当たり前であったこの美しく幸せな光景。久しぶりに目にして、あらためて学校は素敵な場所であり、人の心を優しい気持ちしてくれる場所だと感じることができました。

同時に、ひとつの記憶が蘇りました。私自身が小学校に入学して間もないころの出来事です。朝、学校まではたどりついたものの自分の教室がわからず、校舎で迷子になり、どこかの廊下で泣いてしまっていました。その当時は、1年生だけで8クラスあり、1年生の私にしたら、学校は巨大な迷路のような場所でした。そこに6年生らしき子が「どうしたの?」と優しく声をかけてくれました。名札か何かを確認すると、泣きじゃくる私の手を握り教室まで連れて行ってくれたのです。その後、その6年生とどんな話をしたのか、それっきりだったのか記憶には残っていませんが、手のぬくもりと心底不安で困っているときに救われた安堵感のような気持ちは40年以上経った今でもはっきりと覚えています。

学校は、1年生から6年生まで、年齢の違う子どもたちがともに過ごす場です。さらには、教職員や保護者、地域の方、ボランティアやゲストティーチャーの方など、様々な立場、年代の人たちが関わります。これから、子どもたちには多くの人たちとの豊かな出会いを数多く経験してもらいたいと願っています。長かったコロナ禍のトンネルを抜けた後の学校。これまで以上に、あたたかな人とのつながりの経験を積み重ね、自分を大切に、人に優しくできる子どもたちを育ていけるよう尽力してまいります。

保護者の皆様、地域の方々、引き続きお力をお貸しください。皆様と手に手をとって、子どもたちへの教育を推進してまいります。引き続きのご協力をよろしく願いいたします。